

巻 頭 言

第13回環太平洋精神科医会議

秋山 剛 日本精神神経学会理事
Tsuyoshi Akiyama

平成20年10月30日～11月2日に、赤坂(東京都)の都市センターホテルで第13回環太平洋精神科医会議が、環太平洋精神科医会議および、日本学術会議、日本精神神経学会、日本社会精神医学会、多文化間精神医学会の共催で行われます。(学会ホームページ <http://prcp2008.org/>)

この大会は、平成14年の世界精神医学会横浜総会以来の、日本で開かれる総合的なテーマに基づいた国際大会です。平成19年4月には、世界精神医学会地域大会が韓国のソウルで開かれ、大きな成功をおさめました。平成19年11月には、台湾の高雄で開かれた台湾精神医学会に、東アジア各国の代表が参加して、特別国際フォーラムが行われました。世界精神医学会や東アジアの学会からは、「日本でも国際大会を活発に開催してほしい」という要請があります。

今大会では、環太平洋精神科医会議理事長・世界精神医学会教育担当役員のAllan Tasman先生、WHOの精神衛生・物質依存局長のBenedetto Saraceno先生、九州大学の神庭重信先生、ジュネーブ大学のNorman Sartorius先生、ワシントン大学のRobert Cloninger先生、ルイビル大学のJesse Wright先生、ブリティッシュ・コロンビア大学のTrevor Young先生、Black Dog研究所のGordon Parker先生、台湾の国立健康研究所のKeh-Ming Lin先生、中国の上海精神衛生センターのZeping Ziao先生、韓国のソウル大学のJun-Soo Kwon先生、心理社会的精神医学研究所の西園昌久先生、国立精神・神経センターの樋口輝彦先生、大阪大学の武田雅俊先生、東京都立松沢病院の岡崎祐士先生、理化学研究所の加藤忠史先生にご講演をいただく予定になっています。また、今後の日本における精神医療のモデルになると思われる

「地域メンタルヘルス」についても、シンポジウムや研修セミナーが行われる予定です。

また、日本若手精神科医の会の協力を得て、海外から30名の若手精神科医を招請する予定です。これほど大規模な若手研修プログラムが東アジアで開かれるのははじめてであり、今後の国際活動の基礎を固めると共に、大会の雰囲気を活発に盛り上げていただけないかと考えています。

環太平洋精神科医会議は、元々は、東アジアおよびアメリカ西海岸で活動していた、東アジア出身の講座担当者のサロンの集まりとして開始されました。しかし、今大会では「変貌する環太平洋精神医学：多文化・多職種協働の精神医学」をテーマにしており、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士、臨床心理士など、多職種の参加を求めています。参加地域としても、狭義の環太平洋を越えて、東南アジア、南アジアの精神科医にも参加を呼びかけています。また、従来は臨時的な発表が多かったのですが、今回は「よりよい精神医療の実現のためには、基礎研究と臨床実践の統合が必要である」という考えから、先駆的な基礎研究に関するシンポジウムも、いくつか計画していただいています。

今回の学会は、日本精神神経学会会員のみならず、東アジアを中心とした海外との連携、多職種との協働、コミュニティーメンタルヘルスの方向性など、今後の日本の精神医療が向かうべき方向性について考えるヒントをつかんでいただくのに、またとない機会ではないかと思えます。もちろん、海外からの参加者と、個人的な交流も活発に持っていただければと願っています。みなさまのご参加をこころよりお待ちしております。